

ハマボウ *Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。代表的な塩湿地性植物で、鑑賞的な価値も高い。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ2~4mになる。葉は互生し、長さ1~2cmの柄があり、葉身は円形~広卵形、長さ4~7cm、幅3~6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は7~8月、花は枝の上部の葉腋に1個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約5cm、花弁は5枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ4~5cmである。果実は卵形で長さ約3cm、褐色の毛が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(芹沢 79248)、田原赤羽根(小林 53157)、渥美(芹沢 62482)。幡豆にもあるが、良好な標本を採取できていない。小林・深谷(2008)には花の写真が掲載されている。渥美町堀切の群落は県の天然記念物に指定されている。このほか名古屋南東部(南区加福町、高木順夫 8635, 2000-7-28)にもあったが、絶滅した。

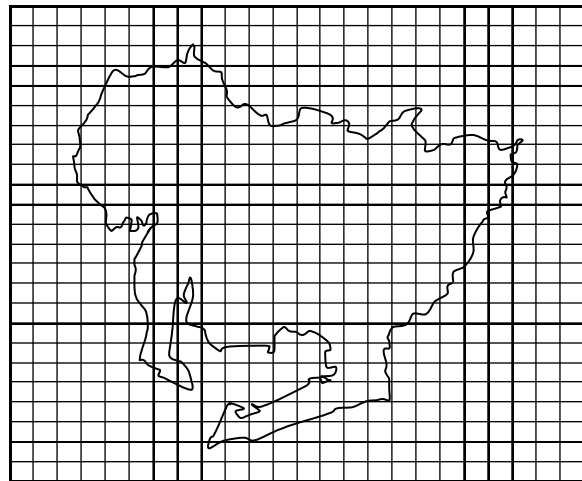
【国内の分布】

本州(関東地方南部、東海地方、紀伊半島、中国地方)、四国、九州、琉球北部(奄美大島まで)。

【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の泥湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾の奥部には点在しており、特に豊橋市神野新田町にはよい群落がある。本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば定着・生育できるが、開発の結果そのような状態がなくなれば存続できない。赤羽根町の赤羽根漁港には、かつて大きな群落があったらしい。伊勢湾側では名古屋南東部(南区加福町)の貯木場跡に幼木が1株あったが、廃棄物処分場設置のために埋め立てられて消滅した。

【保全上の留意点】

塩湿地は開発圧力の高い場所であり、特に注意して保全すべき環境の一つである。

【特記事項】

この類としては、最も北に分布している種である。時に観賞用に植栽されることがある。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.60. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保木本 p.229、平木本 p.71、SOS旧版 p.64、SOS新版 p.154,156.